

● 2015年（平成27年）4～6月

1 社会・治安情勢

(1) ヨルダン・シリア国境情勢

ア 4月2日、ヨルダン軍は、自由シリア軍他のシリア反体制派武装勢力によるナシーブ国境のシリア側地域掌握を受けて、国境地帯への軍の展開を強化。同日夜、シリア反体制派武装勢力によりシリア側の中立地帯に置かれていた貨物や大型トラックが略奪された。同3日、マジジャーリ内相は同国境を視察、引き続きナシーブ国境の閉鎖を再確認。今回の略奪行為によるヨルダン側の損失は5,000万ドル以上（ヨルダン側関係者）。

イ マジジャーリ内相の発言（4月5日）

ヨルダン領土に対する外部からの脅威に対し、国境を越えて行動を起こす用意がある。ヨルダン人トラック運転手らによれば、今回の略奪行為は自由シリア軍と名乗る分子によるものであった由。ヨルダン軍・治安当局は然るべく任務を遂行し、国境地帯の治安を維持、シリアからの脅威が波及することはない。

ウ 12日、ヨルダン内務省は、一部報道機関が同国境中立地帯の状況が通常状態に復した旨報じていることに対し、これが直ちに同国境の閉鎖解除を意味するわけでは全くない旨強調。

(2) ヨルダン・イラク国境情勢

ア 4月5日、イラク政府は、治安悪化の理由で本年3月中旬から約2週間に亘り一時的に封鎖していたヨルダン・イラク国境（カラマ国境）について、ヨルダン側からの大型トラックの越境を許可。ヨルダン側からイラクへの農産物の輸出が再開。ヨルダン農業省によれば、ヨルダンからのシリアへの農産物（野菜・果物）の年間輸出量は9万トン。ヨルダン・シリア国境の閉鎖により農業関係者は大打撃を受けているため、今回のイラクへの農産物の輸出再開により経済損失が補填されることを期待。

イ 15日当地紙は、イラク軍のアンバールにおけるオペレーションに関して、ヨルダン軍は引き続き治安措置を強化しており、いかなる脅威にも対応できる旨の軍関係者の発言を報じた。

(3) 5月30日、ヨルダン軍は、シリアからヨルダンへ不法に入国しようとした車両2台を破壊し、侵入者を支援するためヨルダン側から同地に到着した別の車両2台も破壊した。

また、4台の内1台の車両から大量の麻薬及び武器が発見された（6月1日付ヨルダン・タイムズ紙）。

(4) 6月1日夜、ペトラ市に居住する数十名の青年がアイン・ムーサにおいて、放火したタイヤ及び石を置いて幹線道路を封鎖し騒擾行為に及んだため、

治安当局は催涙弾を使用して鎮圧した。また治安当局はペトラ市内の容疑者の家宅捜査を行い、同騒擾行為に関与したとされる6名の身柄を拘束し、武器を没収した（6月3日付ガド紙他）。

（5）マアーンでの治安当局と容疑者との銃撃戦

6月15日午前、ヨルダン治安当局は、マアーンにおいて逃亡していた「極めて危険な容疑者」4名（うち3名は兄弟）が潜伏している家屋を急襲し、銃撃戦の末、容疑者2名を殺害した。治安当局関係者4名が負傷した（16日付当地各紙）。

（6）シリア国境における不法侵入者

6月16日、ヨルダン軍は、シリアからヨルダンへ不法に侵入しようとした男1名を監視カメラにより発見した。同軍は、警告を行ったが、従わなかったため、男を殺害した。

約1週間前には2人の男がヨルダン北部の国境において不法侵入を行おうとして射殺されている（6月17日付ヨルダン・タイムズ紙）。

（7）シリアから飛来の砲弾でラムサの5人が死傷

6月25日、シリアのダラーから飛来した砲弾がヨルダン北部の都市ラムサに着弾し、1名が死亡、4名が負傷した（6月26日及び27日付ヨルダン・タイムズ紙）。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ヨルダンの地域別犯罪発生件数（2013年）[（別紙1）](#)

（2）ヨルダンと日本の犯罪情勢（2013年）[（別紙2）](#)

3 テロ・爆弾事件発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

なし。

（了）